

伊那市環境審議会 会議録要旨

会議名称	伊那市環境審議会
開催日時	令和6年10月25日（金） 10時00分～11時30分
開催場所	伊那市役所 第一委員会室（2階）
出席者	委員 12名 事務局 7名
会議進行等	進行：生活環境課長 1 開会（副会長） 2 あいさつ 3 協議事項（進行：会長、説明：事務局） (1) 第2次伊那市環境基本計画の見直しについて (2) 一般廃棄物処理基本計画について (3) その他 4 その他 5 閉会（副会長）

【要旨】

1 開会

【副会長】

第2回伊那市環境審議会を開会する。

2 あいさつ

【会長】

委員全員の出席に感謝申し上げます。第2次伊那市環境基本計画の見直しと一般処理廃棄物基本計画が今日の議題だが、いずれも非常に重要な案件である。基本計画の見直しについては中間評価年度として検査し、適切な修正を行う必要がある、効率的かつスムーズに議事進行できるよう協力をお願いする。この後説明があると思うが、質問意見については受付期間を設けるとのことなので、その辺を含めて発言いただきたい。

3 協議事項

(1) 第2次伊那市環境基本計画の見直しについて

- ・事務局より説明（資料No. 1-1、資料No. 1-2, 資料No. 1-3）

【委員】

2050年カーボンニュートラル行動計画について、市がどのような事をして具体的にどうなれば目標達成となるのか見えない。市としての評価の仕方もわからない。

【事務局】

現状方針が明確になっていないため、どのような事をすれば達成となるのか事務局でも把握できていない。バックキャスティング方式による目標設定であるため、どのような取り組みを行っていくかについては今後検討したい。

【委員】

省エネ問題や原子力問題もあるので非常に難しいように感じる。

【会長】

日本は先進国の中では取り組みが遅れている。50%削減という希望的目標値に対して実施していくのは市町村で国も具体的に言及しておらず、達成も難しいのではと考えている。そもそも伊那市は森林が多く二酸化炭素の吸収量が多く、東京と伊那ではやれること取り組む内容も大幅に変わってくるし、だからこそ各市町村で取り組みを考えるように指示が下りてくると考えている。議論して具体的な施策を出さなくてはならない。当審議会の委員にも意見を伺うことになるのでその時はよろしくお願ひしたい。

【委員】

森林整備に伴う未利用材の有効活用として薪ストーブやペレットストーブ、ペレットボイラー、チップボイラーの導入や木質バイオマス発電の実証事業の開始については賛同できるが、ペレットストーブや薪ストーブの目標設置台数が1,000台を超えており、ストーブに利用したい人と発電で利用したい人で材料の取り合いになるのでは。

【事務局】

木質バイオマス発電も材に限りがあるため、現状取り合いになっている事実はある。しかし、伊那市で進めるのは薪ストーブやペレットストーブの材料は森林整備によって排出されたものを中心に活用するため、材料が無くなることはない想定している。

【委員】

家庭から排出される剪定枝については、燃えるゴミとして捨てられているが、そういった木を森林組合で保管してもらうような事はできないか。

【事務局】

今年度、森林組合のペレット製造工場に木質バイオマス発電の整備を行っている。燃料になるのが切削チップになるが、その切削チップを生産する施設も整備しており、家庭で排出された剪定枝についても活用できないか検討している。

【委員】

薪ストーブを使っている人にとっても、貯木所から薪を持っていけるようなシステムができればいいと思う。

【事務局】

担当課とも情報共有し検討する。

【会長】

未利用材を使用することだが、薪を潤沢に供給することができるのかは気になる。薪を専門に扱う業者もあるので調整や連携をとって効率的な方法を考えたほうがいい。材料の取り合いは十分に注意して監視する必要がある。材料確保のために二酸化炭素の排出を増やしてしまっては意味がない。伊那市は森林が多く今後宝になる資源を多く有しており、如何に上手く使っていくか考えていく必要がある。

【委員】

核心地域、緩衝地域、移行地域の説明図については賛同する。CO2フリー電気やデコ活等単語の補足説明が必要ではないか。また、変更後の数字についての根拠説明が必要ではないか。

【事務局】

環境基本計画本文には補足説明や根拠説明している。

【会長】

デコ活という言葉が最近まで知らなかったので調べてみたが、現状はスローガンのようなもので今後計画を実行する中でどのような位置づけになるのか気になる。炭素排出量を減らすための国民運動のようなものだが国民に周知されていない。デコ活の言葉の意味や内容の補足説明があってもいいと思う。

【委員】

C02削減量の目標が59,000 t-C02から255,000 t-C02と4倍近く増加しているがここまで増やして目標達成することは可能なのか。

【会長】

C02の目標削減量の46%に合わせて算出するとこのような数字になるのでは。

【事務局】

会長のおっしゃるとおり。また現在の目標値59,000 t-C02は現状趨勢を加味した数字となっているが、修正後の目標値255,000 t-C02は現状趨勢を加味していない数字となっている。現状趨勢とは、今後新たな対策を行わないものと仮定し、人口減少といった社会的要因等で自然に減少が見込まれる数値のことである。

【会長】

では現状趨勢がどの程度で実際の削減目標値はどのくらいなのか。

【事務局】

現状趨勢は約100,000 t-C02から110,000 t-C02となっているため、実際の削減目標値は150,000 t-C02程度となる。変更前と比較しても倍以上の削減目標値となっている。

【会長】

先程の質問にもあったが、削減に向けた計画はこれから議論されることになる。現状はあくまでも目標値として捉えていればいいのではないか。

【委員】

3 Rに発生抑制を意味するリフューズを加えた4 Rとして推進するのはどうか。

【事務局】

4 Rも検討したが、4つ目のRがリフューズであったりリプレイスであったりと4 Rとしての定義が明確ではないため、4 Rにすることで誤解が生じてはいけないと判断した。伊那市では脱プラにも注力していることから3 Rにリプレイスを加える形で修正した。

【会長】

リフューズも大事な要素ではあるので検討いただきたい。

【委員】

最近は一ペアを加えた5 Rという言葉も生まれている。Rの使い方が色々あるので何をもって4 R、5 Rと定義するのが難しい。3 Rとしておくのがいいのではないか。

【会長】

R eは「再」という意味になり今後もR eを使った言葉は増えていくと思う。Rの数も今後の検討材料だが、実際に何をR eするのかを明確に示す意味では、市民の誰が見てもわかるような内容であることも重要である。3 Rにしても補足説明があってもいいと思う。

【委員】

伊那市地球温暖化対策地域エコリーダー協議会が中止となっているが、この協議会についての注釈書きはあるものの、発足経緯やメンバーや休止理由について伺いたい。また、括弧書きでサステイナブル環境部会がどういったものなのか教えていただきたい。

【事務局】

伊那市地球温暖化対策地域エコリーダー協議会は、この環境基本計画を効率的に進めるために市民や事業者を中心にして開催していた。令和2年から新産業技術推進協議会の中でサステイナブル環境部会が発足され、エコリーダー協議会と取り組む内容に重複部分が多く脱炭素に向けた協議も行っていたことから、エコリーダー協議会とサステイナブル環境部会の方向性が異なるのは良くないという判断のもと、エコリーダー協議会を休止とすることになった。ただし、サステイナブル環境部会が取組方針が定まり自走可能となり新産業技術推進協議会から離れることになった場合にエコリーダー協議会を再開する可能性はある。

【委員】

別の質問でもあったが、専門的な言葉が多いので補足説明をお願いしたい。

【会長】

サステイナブル環境部会はエコリーダー協議会の下部組織ではないが、エコリーダー協議会の後に括弧書きでサステイナブル環境部会と記載されてしまうとエコリーダー環境部会の下部組織としてサステイナブル環境部会があると思われてしまう。記載方法についても修正したほうが良い。

【委員】

資料No. 1-3の所々に旧名称が記載されているがこのままでいいのか。

【事務局】

資料No.1-2の修正案が通ったところで修正予定。

(2)一般廃棄物処理基本計画について

- ・事務局より説明（第四次改訂版（素案））

【委員】

令和7年からプラスチックごみの収集方法が変わり、今まで燃やせるごみだったプラスチックごみを資源化することだが、これにより一人あたりの燃やせるごみがどの程度減るのか。

【事務局】

一人あたりの数値は出していない。先進地の事例を参照すると初年度で10%程度の減少となる見込み。浸透していけば増えていくと思われる。

【委員】

10%程度の減少が見込めるのであればもう少し排出目標値を下げられるのではないか。

【事務局】

目標値はプラスチックごみの資源化を含めた数値となっているが、もう一度検討する。

【会長】

組成調査で製品プラスチックの排出割合も調べていると思う。現状資源プラスチックごみとして出すには制限が多いので資源化による明確な効果を示すのが難しい。これは今後製造産業も含めた話になってくると思う。上伊那広域連合としてもやってみないとわからない部分もあるので、上伊那広域連合から毎年出される数字を見て今後の審議会で確認していければと思う。

【委員】

2年前に海外から伊那市に移住してきたが、ごみ袋代がとても高いと感じた。資源プラスチックに気が付いて分別し始めてから燃やせるごみの量が減ったが、今は家庭から出る剪定枝によって燃やせるごみを減らせず困っている。ごみ袋代が高いのは困るが、高いが故に燃やせるごみを減らすための工夫に繋がると思う。製品プラスチックの分別についてはもっと啓発を行っていいのではないか。

【会長】

ごみ袋代が高いのはまさにそれが狙いで、そのおかげで伊那市は県下でもごみ排出量において上位に位置している。そもそも長野県はごみ排出量に関して全国と比較して優等生だが、その中でも上伊那地域は上位に位置しているので、これ以上のごみの削減は難しいのではないかと考えている。しっかりと現状を維持しながら、プラスチックごみの資源

化によってどの程度効果が出るのかはチェックポイントである。剪定枝については先程の質問にもあったが別の収集方法を考えなければならない。ここも今後審議会で知恵を出し合う必要があると思う。

【委員】

11月9日に伊那市食器リサイクルありがとう市が開催されるとのことで、主催が食器リサイクルの会となっていたが、食器リサイクルの会という団体があることを初めて知った。今後目標を達成させるためには仲間づくりも重要になってくる。伊那市内で環境問題に取り組む団体が一堂に介す機会を作る等、横の連携をとりやすい仕組みを考えてもらえるとありがたい。

【会長】

それについては同感である。行政には是非とも前向きに検討していただきたい。

【委員】

プラスチック代替製品として経木が挙げられていたが、価格が高い。使ってみたいと考えている人のために補助があるとありがたい。

【事務局】

今はそういった補助はないが検討する。

【会長】

利用が広がり生産量が増えれば単価も落ちてくると思う。補助金を利用を広めるための起爆剤になるかもしれない。

(3)その他

【事務局】

環境基本計画の見直し、一般廃棄物処理基本計画ともに11月22日までにご意見があれば提出をお願いしたい。様式は問わないが、どの部分についての意見なのかわかるように記載いただきたい。

【委員】

つなぐ信州屋根ソーラーのポータルサイトが開設され、太陽光設置にかかる費用やメリット、について説明もあるので是非ご覧いただきたい。

【委員】

事前に送っていただいていた資料と変更点のない書類を用意してもらうのも如何なものかと思うので、次回以降は変更のあった書類だけ用意してもらえればいいのか。

4 その他

【事務局】

アンケート調査等の資料について、現在は詳細が記載されているが公表の段階では集約したものを載せる予定。

5 閉会

【副会長】

長時間に渡る活発な審議に感謝する。以上、第2回伊那市環境審議会を閉会する。